

NEC
Express5800シリーズ

ESMPRO[®]/JMSS[®]
ジョブ連携オプション Ver7.1
UL1044-505

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは、「ESMPRO/JMSS ジョブ連携オプション」をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書は、セットアップ方法について説明しています。製品をお使いになる前に必ずお読みください。

また、「ESMPRO/JMSS ジョブ連携オプション」の説明書として次のものがあります。

- ・「ESMPRO/JMSS Ver7.1 ジョブ連携オプション ユーザーズマニュアル」

最新情報は、NECサポートポータル(<https://www.support.nec.co.jp/>)にて公開しております。

- ・最新マニュアル、セットアップカード

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170100377>

【JMSS】 マニュアル、セットアップカード

- ・最新リビジョンの紹介

【JMSS】 最新リビジョンを教えてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3150111020>

Microsoft®、Windows®、Windows Server® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

ごあいさつ	ii
目 次	iii
1 インストールの準備	1
1.1 システム環境	1
1.2 インストールを行う前に	1
2 インストールの方法	2
3 各種設定	4
3.1 NQS 稼働マシンの設定	4
3.1.1 ネットワーク関連ファイルの設定	4
3.1.2 マシン ID の登録	5
3.1.3 ジョブキューの作成	5
3.1.4 パイプキューの作成	6
3.1.5 ジョブキューの状態変更	6
3.2 JMSS サーバの設定	7
3.2.1 ネットワーク関連ファイルの設定	7
3.2.2 ジョブ連携設定ファイル(JNQS.ini)	7
3.2.3 稼働マシンの登録	14
4 アンインストール	15
5 注意事項	16
付録 終了コード表	17

1 インストールの準備

1.1 システム環境

オペレーティングシステム	Windows Server 2003, Standard Edition Windows Server 2003, Enterprise Edition* Windows Server 2003, Standard x64 Edition Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition* Windows Server 2003 R2, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition* Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition* (上記はいずれも SP2 を適用のこと) Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Enterprise* Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise* Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter* Windows Server 2012 R2 Standard Windows Server 2012 R2 Datacenter*
メモリ容量(最小使用メモリ)	2MB 以上
固定ディスク空き容量	3MB 以上

*ESMPRO/JMSS EnterpriseEdition と併用する場合のみ

1.2 インストールを行う前に

インストールを行う前に、以下の条件をすべて満たしていることを確認してください。
条件を満たさない場合、インストールが正常に行えない場合があります。

(1) マシン環境の条件

①ドメイン運用の場合

- ・JMSS運用コンピュータは、JMSS運用ドメインに属していること。
- ・ログオン先は、JMSS運用ドメインであること。
- ・ドメインコントローラが正常に起動していること。

②ワークグループ運用の場合

- ・JMSS運用ワークグループに属していること。

(2) インストールユーザーの条件

インストールユーザーは、以下のユーザーグループに属していること。

①ドメイン運用の場合

- ・JMSS 運用ドメインの「Administrators」グループ
- ・JMSS 運用ドメインの「Domain Admins」グループ
- ・JMSS 運用コンピュータの「Administrators」グループ（ドメインコントローラ以外の時）

②ワークグループ運用の場合

- ・JMSS運用コンピュータの「Administrators」グループ

注意： アンインストールは、インストールユーザーと同じユーザーで行う必要があります。

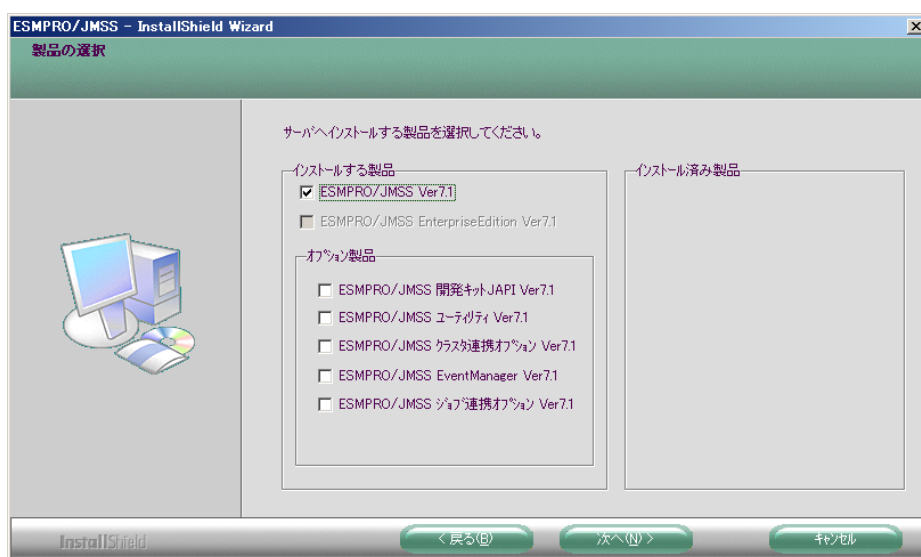
2 インストールの方法

『1. インストールの準備』を必ず読み、インストールの準備を行ってから、インストールを行ってください。

- (1) ESMPRO/JMSSまたはESMPRO/JMSS EnterpriseEditionの製品パッケージに入っているCDのsetup.exeを起動します。
- (2) インストールウィザードが起動されますので、ウィザードに従ってインストールを進めてください。

いくつかのダイアログについて説明します。

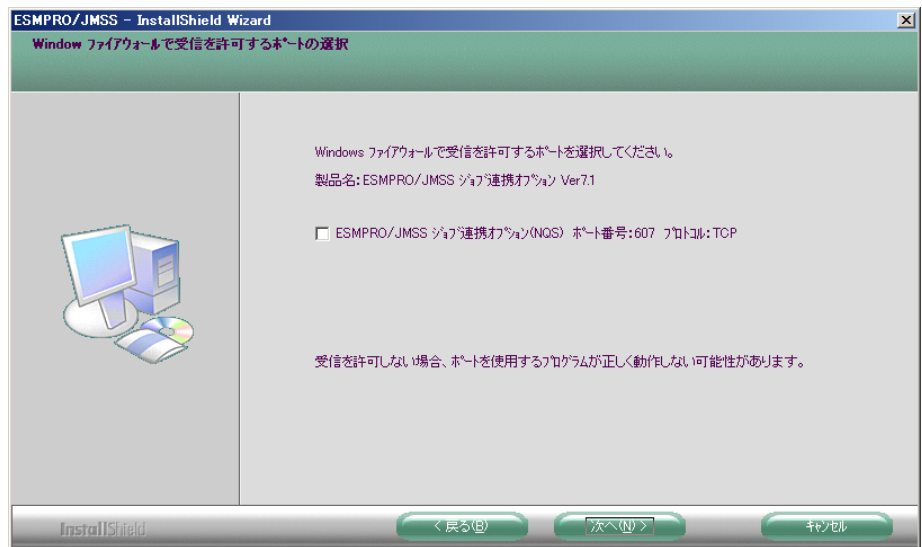
(a) 「製品の選択」ダイアログ



このダイアログでは、インストールする製品を選択します。

- ・ジョブ連携オプションをインストールするマシンには、「ESMPRO/JMSS」または「ESMPRO/JMSS Enterprise Edition」がJMSSサーバまたは稼働マシンとしてインストールされている必要があります。
- ・インストール済みの製品を選択すると、該当製品は上書きインストールされます。

(b) 「Windowsファイアウォールで受信を許可するポートの選択」 ダイアログ



このダイアログでは、ジョブ連携オプションで使用するポートを設定します。受信を許可しない場合、ジョブ連携オプションは正しく動作しませんので、ここで設定しない場合は、インストール後にポートを設定してください。なお、Windows Firewallのサービスが起動している場合のみ、このダイアログが表示されます。また、アンインストールしても、上記のポートの設定はインストール前の状態に戻りませんので、ご注意ください。

注意： インストール時に万が一、エラーが発生した場合は「付録 終了コード表」を確認してください。

3 各種設定

3.1 NQS 稼働マシンの設定

NQS稼働マシン側に必要な設定は、次のとおりです。

- ・ ネットワーク関連ファイルの設定
- ・ マシンIDの登録
- ・ ジョブキューの作成
- ・ パイプキューの作成
- ・ ジョブキューの状態変更

これらは管理者権限（rootなど）で設定してください。

3.1.1 ネットワーク関連ファイルの設定

hostsファイルに使用するマシン名とIPアドレスを記述します。

155.1.1.1	HOST1
155.1.1.2	NQS1
155.1.1.3	NQS2

hosts.equivファイルに、参照するマシン名(JMSSサーバ、NQSマシン)を記述します。

HOST1
NQS1
NOS2

servicesファイルにNQSで使用するポート番号を記述します。

NQS	607/tcp
-----	---------

3.1.2 マシン ID の登録

NQSにマシンIDを登録するには、**nmapmgr**を実行します。
JMSサーバ、使用するNQS稼働マシンをすべて登録します。

次の例ではhost1名のマシンがマシンID 10で登録されます。

```
# nmapmgr  
NMAPMGR>: add mid 10 host1
```

“list” コマンドで一覧が表示されます。確認する際に使用してください。

```
NMAPMGR>: list
```

使用するマシンの別名を登録する必要がある場合は、次のように登録します。
hosts.equivファイルにも別名を登録してください。

```
NMAPMGR>: add name NEC1 10
```

登録が終了したら、**exit**でnmapmgrを終了します。

```
NMAPMGR>: exit  
#
```

注意: NQS稼働マシンを複数台稼働させる場合、すべてのNQS稼働マシンにマシンIDの設定が必要です。マシンIDに不整合が発生すると正常に動作しません。

3.1.3 ジョブキューの作成

ジョブを投入するためのキュー(バッチキュー)を作成するには、**qmgr**を実行します。

次の例では、batch1という名前でバッチキューが作成されます。

```
# qmgr  
Mgr: create batch batch1
```

注意: キュー名は、「ジョブキュー名 + “@” + NQS稼働マシン名」で15字以内となるようにしてください。

3.1.4 パイプキューの作成

ジョブを転送するためのキュー(パイプキュー)を作成するには、**qmgr**を実行します。

次の例では、**pipe1**という名前でパイプキューが作成されます。転送先は**host1**の**batch1**キューです。(hosts1はnmapmgrで登録されている必要があります)

```
# qmgr
Mgr: create pipe pipe1 Destination = batch1 @host1
```

注意：キュー名は、「ジョブキュー名 + “@” + NQS稼働マシン名」で15字以内となるようにしてください。

3.1.5 ジョブキューの状態変更

作成したキューはそのままでは使用できませんので、キューの状態を投入可能にし、さらに実行可能状態にします。

```
Mgr: enable queue batch1
Mgr: enable queue pipe1
Mgr: start queue pipe1
```

キューの作成が終了したら、**exit**でqmgrを終了します。

```
Mgr: exit
#
```

3.2 JMSS サーバの設定

JMSSサーバ側に必要な設定は、次のとおりです。

- ・ネットワーク関連ファイルの設定
- ・ジョブ連携設定ファイル(JNQS.ini)の設定
- ・稼働マシンの登録

3.2.1 ネットワーク関連ファイルの設定

<Windowsインストールディレクトリ>%system32%drivers%etcにある**hosts**ファイルにNQSマシン名とIPアドレスを記述します。

155.1.1.1	HOST1
155.1.1.2	NQS1
155.1.1.3	NQS2

インストール時に設定しなかった場合、

<Windowsインストールディレクトリ>%system32%drivers%etcにある**services**ファイルにNQSで使用するポート番号を記述します。

NQS	607/tcp
-----	---------

3.2.2 ジョブ連携設定ファイル(JNQS.ini)

ジョブ連携設定ファイル(JNQS.ini)は、JMSSインストールディレクトリにあります。

■マシンID設定

JMSSサーバとNQSジョブ稼働マシンのマシンIDを設定します。

[MID] HOSTNAME=host1,100 NAME1=host1,100 NAME2=NQS1,101,NEC NAME3=NQS2,102 NAME4=NQS3,103,NEC NAME5=
--

<HOSTNAME=ホスト名,マシンID>

HOSTNAMEには、ジョブ連携オプションが起動されているJMSSサーバ名とマシンIDを設定してください。

<NAME1=ホスト名,マシンID>

NAME1には、HOSTNAMEで設定した値を設定してください。

<NAME2=ホスト名,マシンID,NQSモード>

:

NAME2以降には、NQSジョブ稼働マシンのホスト名とそのマシンID、NQSモード(標準NQSの場合は省略、NEC拡張NQSの場合は「NEC」)を設定してください。

デフォルトでは「NAME5=」まで記述されています。NQSジョブ稼働マシンが5台以上となる場合は、NAME6から順次追加してください。

注意：OSがWindows 2000 SP4以降で、1枚のネットワークインタフェースカードに複数のIPアドレスが割り当てられている場合、NQSモードの後に各ホストのIPアドレスを追記し、「RESOLV=」を修正してください。

例) NAME1=host1,100,,155.1.1.1
NAME2=host2,101,,155.1.1.2
RESOLV=SELF,SYSTEM

■ユーザーID設定

ユーザーIDを設定します。

```
[USERNAME]
DEFUSER=user1,NQSusr1,1001
NAME1=user1, NQSusr1,1001
NAME2=user2, NQSusr2,1002
NAME3=user3, NQSusr3,1003
NAME4=
NAME5=
```

<DEFUSER =ユーザー名,NQS稼働マシンユーザー名,ユーザーID>

DEFUSERには、J M S S サーバを使用するデフォルトのユーザーとそれに対応する NQS稼働マシンのユーザー名、ユーザーIDを設定してください。

<NAME1 =ユーザー名,NQS稼働マシンユーザー名,ユーザーID>

NAME1には、DEFUSERで設定した値を設定してください。

<NAME2 =ユーザー名,NQS稼働マシンユーザー名,ユーザーID>

:

NAME2以降には、デフォルトのユーザー以外で J M S S サーバを使用するユーザーを設定してください。

デフォルトでは「NAME5=」まで記述されています。設定するユーザーIDが 6 以上とな

る場合は、NAME6から順次追加してください。

注意：NQS稼働マシンのユーザーには、「root」を使用しないでください。

■時間設定

ソケットの接続間隔、タイムアウト時間を設定します。

```
[TIME]
WAIT=1
NPKCOMMON=600
```

<WAIT =>

WAITには、ソケットの接続間隔を秒単位で指定します。

デフォルトでは1(秒)が設定されています。

指定できる範囲は1～100（秒）です。

<CONNECT =>

CONNECTには、1回の接続時のタイムアウト時間を秒単位で指定します。

デフォルトでは10（秒）が設定されています。

指定できる範囲は1～100(秒)です。

接続の総タイムアウト時間は（*リトライ数）になります。

<RECV =>

RECVには、受信タイムアウトを秒単位で設定します。

デフォルトは120（秒）が設定されています。

指定できる範囲は0～99999999(秒)です。

0を指定すると無限に待ちます。

<NPKCOMMON =>

NPKCOMMONには、NEC拡張NQSの場合のタイムアウト時間を指定します。

デフォルトは600（秒）が設定されています。

指定できる範囲は1～99999999秒です。

■リトライ設定

ソケットの接続のリトライ回数を設定します。

[RETRY]

NUM=5

<NUM=>

NUMには、ソケットの接続のリトライ回数を指定します。

デフォルトでは5（回）が設定されています。

指定できる範囲は1～100（回）です。

■投入設定

ジョブの投入単位と最大ジョブ登録数を設定します。

```
[THROW]
TANI=0
NUM=10
NUM2=10
NUM3=100
```

<TANI=>

TANIには、J M S S から N Q S へのジョブの投入単位を設定します。N Q S稼働マシンのキューごと(0)、N Q S稼働マシンごと(1)、N Q S稼働マシン全体(2)のいずれかを指定してください。

デフォルトでは 0 (N Q S稼働マシンのキューごと) が設定されています。

<NUM=>

NUMには、J M S S から N Q S (TANIで指定した単位)へジョブ投入する場合の同時投入可能数を指定します。TANIごとにNUM数のジョブを同時に投入することができます。

デフォルトでは 1 0 (個) が設定されています。

指定できる範囲は 1 ～ 1 0 0 (個) です。

<NUM2=>

NUM2には、N Q S から J M S S へジョブ投入する場合の同時実行可能数を指定します。

デフォルトでは 1 0 (個) が設定されています。

指定できる範囲は 1 ～ 1 0 0 (個) です。

<NUM3=>

NUM3には、N Q S から J M S S へジョブ投入する場合の同時投入可能数を指定します。

デフォルトでは 1 0 0 (個) が設定されています。

指定できる範囲は 1 ～ 1 0 0 (個) です。

■標準出力(一時ファイル)設定

NQSからJMS Sヘジョブを投入したときに出力される一時ファイルを削除するかどうかを指定します。

[STDOUT] ERASE=1

<ERASE=>

ERASEには、標準出力を削除するかどうか（0：削除しない 1：削除する）を指定します。

デフォルトは1（削除する）です。

注意： 一時ファイルの作成上限数はNQS稼働マシンのIシーケンス番号につき999個までとなっており、 「標準出力を削除しない」と設定した場合は不要な一時ファイル (JMSSインストールディレクトリ¥LOG¥NQS稼働マシン名.Mid.oXXXXXX[.YYY])を適宜削除してください。
--

■文字コード設定

SJISとEUCの文字コード変換を行うかどうかを指定します。

[CODE] 2BYTE=1


<2BYTE=>

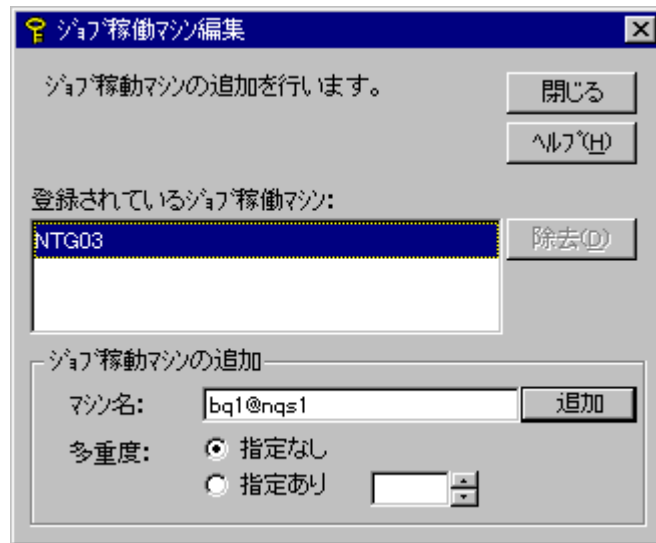
2BYTEには文字コード変換を行うかどうか（0：変換しない 1：変換する）を指定します。

デフォルトは1（変換する）です。

3.2.3 稼働マシンの登録

[JMSS/JEnv]でNQSジョブ稼働マシンを追加します。

- ①サブコマンド(ツールアイコン)から [ジョブ稼働マシン編集] ボタンを選択します。
- ② [ジョブ稼働マシン編集] ダイアログボックスが表示されます。



- ③ [ジョブ稼働マシンの追加] のマシン名に「キュー名@NQS稼働マシン名」を入力します。
- ④ [追加] ボタンを選択すると、NQS稼働マシンとデフォルトジョブキューが作成されます。

4 アンインストール

- (1) ESMPRO/JMSSまたはESMPRO/JMSS EnterpriseEditionの製品パッケージに入っているCDのsetup.exeを起動します。
- (2) インストールウィザードが起動されますので、ウィザードに従ってアンインストールを進めてください。

注意： ESSよりインストールしたJMSS製品のアンインストールはESSにて行ってください。

5 注意事項

(1) インストールについて

本製品より前のバージョンの製品を上書きインストールしないでください。

(2) インストーラの起動について

インストーラは、同時に二つ以上起動しないでください。二つ起動した場合には、すぐに終了してください。

もしも二つ以上のインストーラを同時に実行した場合には、インストール済みの全製品をアンインストールし、再インストールを行ってください。

(3) インストーラの動作について

同一リリースでの再セットアップ、またはバージョンアップインストールを行うと、一部のフォルダやファイルのアクセス権、及びINIファイルの内容が、インストーラで指定した値や、JMSSの初期状態に変更となります。

○各製品のインストールフォルダ、インストールフォルダ配下のサブフォルダのアクセス権を変更している場合には、必要に応じて再設定ください。

○クラスタを構築している場合には、クラスタ構築ガイドに従って再設定ください。

- ・クラスタ連携オプションあり：

- JclusterEnvを起動し保存する

- ・クラスタ連携オプションなしのドメイン環境：

- JCLTOOL片方向クラスタ設定ツールで設定

- ・クラスタ連携オプションなしのワークグループ環境：

- 手動でINIファイルを設定

付録 終了コード表

インストール／アンインストールに失敗した場合、「%temp%」フォルダに出力される JMSS インストールログファイル「~JMSLOG.SYS」をご確認ください。インストールログは「-----」（ハイフン 54 個）から始まるため、最後の該当行以降が最後のインストール／アンインストールのログとなります。

「終了コード： 12050」のように記載される行を確認し、該当コードに対応する対処を実施ください。

下記の表において、コードは上段が 10 進数、カッコ内が 16 進数です。

コード	説 明
0 (0)	内容： インストールに成功しました。 対処： なし。
10769 (2A11)	内容： JMSSインストール情報の参照に失敗しました。 対処： JMSSサーバへのインストールが正常に行なわれたか確認してください。
10770 (2A12)	内容： JMSSインストール情報の作成に失敗しました。 対処： JMSSサーバへのインストールが正常に行なわれたか確認してください。メモリが十分か確認してください。
11027 (2B13)	内容： ファイルの作成に失敗しました。 対処： ディレクトリおよびファイルの書き込み属性を確認してください。
11042 (2B22)	内容： 製品情報の削除に失敗しました。 対処： インストールを起動可能なユーザーか確認してください。 レジストリへのアクセス権があるか確認してください。
11265 (2C01)	内容： ドメイン名の取得に失敗しました。 対処： ドメイン環境とドメインコントローラの状態を確認してください。 またはメモリが不足している可能性があります。いくつかのアプリケーションを終了させて再度「ESMPRO/JMSS」のインストールを行ってください。
11267 (2C03)	内容： サービスの作成に失敗しました。 対処： サービスが正常に動作していることを確認してください。 また新規インストールの場合では同名のサービスが存在しないこと、上書きインストールでは同名のサービスが存在していることを確認してください。
11270 (2C06)	内容： 自マシン名の取得に失敗しました。 対処： マシン環境を確認してください。
11522 (2D02)	内容： 「JMSS/ジョブ運用管理」、「ESMPRO/JMSS Enterprise Edition」がインストールされています。 対処： 「JMSS/ジョブ運用管理」、「ESMPRO/JMSS Enterprise Edition」をアンインストールしてから「WebSAM JMSS」のインストールを行ってください。
11523 (2D03)	内容： 使用しているOSでは使用できないインストールツールでインストールを行おうとしています。 対処： 使用しているOSに合ったインストールツールでインストールを行ってください。

コード	説 明
11682 (2DA2)	内容： WebSAM JMSSのインストール情報が不正です。 対処： WebSAM JMSSが正しくインストールされているか確認してください。
11713 (2DC1)	内容： JMSS/JLookログファイルの変換に失敗しました。 (バージョンアップインストール時のみ発生) 対処： JMSS/JLookログファイルが壊れている可能性があります。 今までの監視ログは表示できません。
11714 (2DC2)	内容： JMSS/JScheduleで登録したスケジュールデータの変換に失敗しました。(バージョンアップインストール時のみ発生) 対処： スケジュールデータが壊れている可能性があります。 今までに登録したスケジュールデータは使用できません。
11715 (2DC3)	内容： JMSSセキュリティ情報の変換に失敗しました。 対処： JMSSセキュリティ情報が壊れている可能性があります。 今まで使用していたJMSSセキュリティは使用できません。
11716 (2DC4)	内容： JMSSのSG情報が不正です。 対処： (セキュリティ情報、キュー情報) 前回JMSSインストールからマシン名が変更された可能性があります。
11719 (2DC7)	内容： DLLのロードに失敗しました。 対処： メモリが十分か確認してください。
11720 (2DC8)	内容： 本インストーラで旧バージョンの製品をアンインストールできません。 対処： 旧バージョンの製品をアンインストールしてから本インストーラを起動してください。
12050 (2F12)	内容： システムファイルのインストールに失敗しました。 対処： メモリが十分か、空きディスクが十分かを確認してください。